

<メディアウオッチ> 岡田副総理を喜ばせる大手メディアの消費増税後押し報道

上出 義樹

民自公3党修正合意の消費増税関連法案が6月20日、衆院に提出された。与野党から強い反対論も聞かれる中、担当閣僚の岡田克也副総理は19日の定例記者会見で、大手メディアによる消費増税後押し報道への事実上の“謝意”とも受け取れる言葉を率直に語っている。新聞やテレビが報じない岡田副総理の発言を紹介する。

岡田副総理は、筆者（上出）の質問に応じ、全国紙など大手メディアの消費税報道への評価・感想を次のように述べている。

「国民の理解を得る上で、多くのメディアが（消費税率の）引き上げの必要性に言及していただいたこと、あるいは論陣を張っていただいたことはプラスになっていると思います。ただ、社説では引き上げるべきだと言いながら、実際の記事を見るとどうかなという、そういうメディアもないわけではありませんが、世論形成に一定の役割を果たしたことは間違いないというふうに思います」

全くその通りだが、ここまであけすけに言わせるとはマス・メディアも随分見くびられたものだ、と筆者は感じた。消費税に批判的な国民から見れば、大手メディアは政府と二人三脚で消費増税推進の鐘や太鼓をたたいているように映るのではないか。

ただ、記者会見では予想通り、全国紙などの現役記者から、副総理の発言に切り込むなどの反応は全くなかった。

（かみで・よしき）北海道新聞で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大学院博士課程（新聞学専攻）在学中。